

令和6年度第1回学校運営協議会報告

- 1 日 時：令和6年5月21日（火）15：30～17：00
- 2 場 所：本校会議室
- 3 出席者：学校運営協議会委員6名
本校職員9名（校長、副校長、事務長、各課主任、総務課員）
計16名
- 4 次 第：1 開会 2 校長挨拶 3 自己紹介 4 会長及び副会長の選出
5 協議（1）学校経営計画について （2）大野高校支援事業について （3）その他
6 その他 7 閉会
- 5 内 容：

2【校長挨拶】

平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。多くの方々が昨年より引き続き務めていただき心強い。今年度の新入生は、11名で定員をかなり下回った。来年度は、定員の過半数を上回るように大野中学校と連携を密にし、励んでいきたい。野球部は、久慈工業と合同チームを編成し、頑張っている。現在は高総体直前の時期で少人数ながらも励んでいる。本日は貴重なご意見を賜りたい。

【学校概況説明】副校長より口頭説明

4 会長及び副会長の選出

会長 野田 雄二 副会長 眞下 美紀子

異議なし、承認

5 協議【質疑・意見交換】

（1）学校経営計画について

A 氏：4 目指す学校像 ウに関して

情報提供：高校との合同の避難訓練実施を検討している。

C 氏：入学者確保についての地域住民への意見交換会の実施時期は？

副校長：7月9日、県から職員が派遣され説明がある。大野高校は令和4年度に一度実施している。

校 長：2年前は、9月と12月に実施。9月では遅いという意見もあったので今年度は7月に実施予定

C 氏：地域住民に傍聴を広く呼び掛けたいが、可能か。

校 長：基本は県教育委員会が主催なので大野高校職員側からの調整は難しい。

D 氏：地区懇談会とは別なのか？

校 長：別である

E 氏：役場はクローズになりがちなので、県の説明会とは別の集会が必要である。

地域住民のニーズ把握が必要。傍聴という形で広く募れないか

校 長：確認してみます。

F 氏：高校の存続について、地域をあげて何とかしたい。子供たちは、大野地域のことを好きで、大野高校を選んでいる。大野でこんなことができるということをアピールすべきだ。高校に望むことは、就職や進学を進路希望を叶えること。勉強ができようになること。ある高校を希望する生徒は何となくであり、動機は明確ではない。今の時代は、どこでも同じ質の教育が受けられる時代、その分はクリアできる。しかし、部活については致し方ないことである。

他の地域を例に挙げると、高校の職員が中学校で出前授業をするのは効果的だった。卓球部もしっかりやれば来るはずだ。また、中学生に大野高校の歴史を調べさせることも有効であると考えている。

B 氏：人数が少なくても出来ることをアピールすべき。

異議なし、承認

(2) 大野高校支援事業について

G 氏：中学生と合同での行事も検討してはどうだろうか。いろいろの場面で中高校生が触れ合う機会が有効ではないだろうか。

A 氏：修学旅行に行けない高校生がけっこういると聞いた。そうした生徒への支援はないだろうか

F 氏：大野地域は、経済的に困窮している家庭が多い。支援が多いと魅力になると思う。帯島の生徒は久慈に近いから生徒が久慈に流れてしまう。大野高校は交通の便が悪いことも志望しない理由の一つだ。

G 氏：同窓会からも町にも要望したい。中学生と保護者の心を揺さぶりたい。

事務長：制服は入学時に町から5万円の補助がある。修学旅行に行けなかった生徒はいなかったが厳しい生徒はいた。担任と事務室で頑張ってサポートしてきた。

G 氏：給食の提供について、大野村が県内で初めて実現した。これからもアピールしていきたい。

H 氏：探究の授業は、魅力化に効果はあったのか

校 長：視覚的な効果はないが、生徒の内面に確実に作用していると感じている。

F 氏：大野木工や里山に魅力を感じている中学生はいる。効果はあると思う。

E 氏：森と水の森林ファウンド予算減について聞きたい。

副校長：国の関係するものは複数年助成後、あとは個々で自走することを主眼としている。新しい事業を起こせば、予算が助成されるかもしれない。

異議なし、承認

(3) その他

E 氏：高校内居場所カフェ「おおのカフェ」（仮）設置について

大野高校内にカフェを設置したい。コンセプト「学校と地域を繋ぐ」

（詳細別紙資料参照）学校を居場所にできる生徒や大人の非日常の場所にしたい。生徒のSOSをキャッチすること、大野高校の存続についての機運を高める。行政、高校、地域の各プレイヤーの連携の機運を促したい。

6月上旬～下旬に実施し始めたい。卒業生たちにもニーズを聞いている。隔週で月曜日の夕がたの時間帯で実施したい。リラックスして寛げるスペースにしたい。卒業生から大野高校図書室に読みたい本がないと卒業生から聞いた。町の図書館との連携も視野にいれていきたい。岩手県内の高校にカフェがある学校はない、高校の魅力の一つになると考えている。大野高校と地域が一体となって存続を願う機運の高まりの一助の具現化としたい。校長先生の英断で加速させていきたい。行政のバックアップの有無は大きい、町にも働きかけていきたい。

高校生は、カフェを利用せずにはすぐ帰ってしまうとのことだ。職員のなかでも、ご家庭に眠っている家電提供をお願いします。社会福祉法人も方も賛同している。

中学生にも使わせたいけど、どうだろうか

F 氏：それは、距離的にも時間的にも厳しい。

6 その他

今後の本校の支援に関する会議予定

6月27日（木）学校運営協議会 第1回総会

7月 9日（火）入学者確保に向けた意見交換会を実施予定